

## Clinical characteristics of hoarding disorder in Japanese patients

桑野, 真澄

<https://hdl.handle.net/2324/4474897>

---

出版情報 : 九州大学, 2020, 博士 (医学), 課程博士  
バージョン :

権利関係 : (c) 2020 The Author(s). Published by Elsevier Ltd. This is an open access article  
under the CC BY-NC-ND license

(別紙様式2)

氏名	桑野 真澄
論文名	Clinical characteristics of hoarding disorder in Japanese patients
論文調査委員	主査 九州大学 教授 神野 尚三 副査 九州大学 教授 須藤 信行 副査 九州大学 教授 二宮 利治

### 論文審査の結果の要旨

ためこみ症（HD）について先行研究では、早期発症、慢性的な経過、家族性、未婚率の高さ、および他の精神疾患の併存率の高さ、といった臨床的特徴が報告されている。しかしながら、日本人HD患者を対象とした臨床研究は非常に限られている。その結果、日本ではHDの認知度が低く、日本人HD患者の評価と治療が不十分となっている。

本研究は、日本人HD患者の臨床的特徴を明確にすることを目的とし、30名のHD患者、20名の強迫症（OCD）患者、21名の健常対照者（NC）を対象とした。

HD群はOCD群と比較して、より家族性が高く、発症が早期で、罹病期間が長い傾向を認めた。さらに、HD群はNC群よりも、有意に高い未婚率を示した。HD群における上位2つの併存症は、うつ病（56.7%）と注意欠如・多動症（26.7%）であった。HD群は他の2群と比較して、ためこみ評価尺度の得点が有意に高く、機能の全体的評価尺度の得点が有意に低かった。

本研究は、日本人HD患者が様々な国における先行研究と同様の臨床傾向を持つことを示しており、HDが一貫した臨床症状を持つ各国共通の疾患である可能性を示唆している。

以上の成績はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験ではまず、共著者が10名を超えることから、申請者が主体的な役割を果たしていることを確認した。次に、論文の研究目的、方法、結果などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行い、おおむね満足すべき回答を得た。よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。